



実践団体・プラン基本情報

実践団体の基本情報

記入日	西暦 2025 年 1 月 17 日 (2024 年度のチャレンジプラン)
プラン名	被災地・ふるさと北上から「いのちの尊さ」を発信しよう
実践団体名	石巻市立北上中学校
代表者名	校長・阿部一彦
電話番号	0225-67-2057
メールアドレス	jhsKita@city.ishinomaki.lg.jp
実践団体の説明	<p>北上中学校は、宮城県石巻市北上町にあり、北上川の河口に位置し、川、海、山、里が全てそろっている自然に囲まれた学校です。東日本大震災による壊滅的な被害がありました。現在は復興がほぼ終了しました。</p> <p>本校は、こども園と小学校が隣接しているので、異年齢交流を活発に行っています。</p> <p>中学生は震災の経験がない世代となり、地域も高台に移転となり、災害に対する危機意識が低下し、風化している現状である。</p> <p>そこで、園と小学校と連携を図り、さらに命の大切さを考える機会をもち、地域とともに防災について考え、今後の歩むべき道をさぐり、その「考えを地域に発信することを目的とした取組である。</p>
所属メンバー	教頭・鈴木国也、防災主任・石母田みほ 生徒会担当・安倍幸浩、我妻あいか
活動の本拠地	宮城県石巻市北上町十三浜字小田 9 3 番地 1
活動開始時期・結成時期	2024 年 4 月
過去の活動履歴・受賞歴	

プランの基本情報

プランでの実践主体	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA、 4. 地域組織 6. 公共施設 9. NPO
プランの運営側の人数（実数）	約 4 人
プランの活動地域	北上町地区全域
プランの防災教育の対象者	2. 幼児・保育園児・幼稚園児 3. 小学生（低学年） 4. 小学生（中学年）



	5. 小学生（高学年） 6. 中学生 10. 教職員・保育士等 11. 保護者・PTA 12. 地域住民 17. 高齢者 19. 防災関係者
防災教育の対象者の人数（実数）	約 2 1 0 人（北上中生 4 8 人・小学校 6 2 人・地域住民 1 0 0 人）
プランが対象とする災害	1. 地震 2. 津波 3. 風水害 4. 土砂災害 5. 火山噴火 6. 雪氷災害 7. 犯罪 8. 火災 9. 災害全般
プランの活動目的	1. 防災意識を高める 2. 災害を想定した訓練 3. 防災に関する知識を深める 4. 遊び・楽しみの要素を入れた防災 5. 災害を疑似体験 6. 災害に強い地域をつくる 7. 災害対応能力の育成 8. 防災に役立つ資料・材料づくり 9. 防災に関する技術の習得
対象者が身につく知識・技能等	1. 地震・津波・火山災害 2. 気象災害 3. 災害時に発生する課題・影響 4. 過去の教訓が教える対応策 5. 起こりうる災害の地図等による可視化 6. 平時に行う被害を出さないための備え 7. 災害発生時に身の安全を確保するための行動 8. 災害対応・復旧・復興時の立ち直りに向けた助け合い
プランの活動形態	1. イベント・行事 2. 講習会・学習会・ワークショップ 4. 総合的な学習（探求）の時間 5. 教科 6. 特別活動 10. 校外学習・移動教室 12. 体験学習 13. 避難・防災訓練 15. 読書・絵本・読み聞かせ
プランでの連携先	1. 学校・教育関係 3. 保護者・PTA 4. 町会・自治会 5. 自主防災組織 9. 公共施設 11. ボランティア 12. N P O
実践にかかった金額	30 万円未満



プランの年間活動記録

	プランの立案と調整	活動準備	実践活動
4 月	園と小学校との打合せ 希望塾の説明		
5 月	防災主任との年間予定の調整		園小中交流会
6 月			園小中交流会 園小中合同引き渡し訓練
7 月		希望塾ひまわり畑の種まき	園小中交流会
8 月		希望塾ひまわり迷路の作成	
9 月			園小中交流会
10 月		石巻市総合防災訓練への準備 地域歴史・暮らしの調査と まとめ	
11 月			園小中交流会 命の大切さを学ぶ教室 震災機構への体験活動 石巻市総合防災訓練での発表
12 月			小中移動体験活動
1 月	3.11 いのちの大切さを考える会に向けて		園小中交流会
2 月		3.11 いのちの大切さを考える会に向けての準備	園小中交流会
3 月			いのちの大切さを考える会



実践したプランの内容

<p>プラン全体の概要</p>	<p><目的> 私たちは、東日本大震災を体験していない世代に入ってきました。そこで、東日本大震災により、ふるさと北上や石巻では、どんなことがあったのか、一人一人の命を未来につなぐために、どのような人々が、どのようなことをしたのかを学ぶ必要があると考えました。そして、今自分がふるさと北上で生きていることの意義を考えるとともに、互いの思いや願いを共有し合いたいと思いました。そして、隣接することも園や小学校との交流を通して、一人一人の命の尊さについて語り継いでいくことが目標です。</p> <p><方法> 1 命の大切さを学ぶ機会を多種多様な場面で設定する。 2 園・小学校との連携、交流会を実践する。 3 石巻市総合防災訓練において、地域の方々から調査した結果を新聞にまとめ、地域に向けて発信した。</p> <p><成果> 命の大切さを土台に取り組んだことにより、防災への取り組み方が深いものになった。また、園児や小学生との触れ合いを多くもったことで、小さい子どもへの配慮や気遣いが必要であることに気づく生徒が多くなり、有事の際の小さい子どもへの意識の向上につながった。 さらに、地域との方々とのコミュニケーションを図り、調査に協力をいただき、まとめたものを地域の方々に向けて発表したことで、より、地域との連携が密になった。お年寄りが多い地域なので、有事の際の心付けにも気づいた生徒が多い。</p>
<p>プランの「チャレンジ」の結果</p>	<p><チャレンジの内容> 1 「いのちの尊さ」に関する教育活動を位置付けた教科・領域の年間指導計画の作成 2 北上希望塾（興味・関心がある生徒による、学校内における学びの場）、シェークアウト防災訓練や3.11復興行事「いのちの大切さを考える会」等の企画・運営 3 こども園・小学校との毎月の交流会での連携を通して、合同の避難訓練や引き渡し訓練、異年齢の良さを認め合う場の設定。 4 地区ごとに震災当時のことや被害状況などについて調査し、調べたことを地域の方々や小学生に伝える。</p> <p><結果・成果> 北上地区の利点である、近隣の園と小学校との連携や地域の連携を生かし、実践してきたことで、幼児から15歳までの長いスパンで子供を育てるという北上地区のテーマを明確にすることができた。その上で、土台となる「いのちの尊さ」を防災の中心に添え、生徒の心情面を大切に育てていくことで、命に対して真剣に向き合う生徒が多くなった。 このような取組を通して、防災への取組がより深いものになっていった。特に北上地区の中学生として、何を意識しなければならないのか、主体的に考える生徒が多くなった。</p>



	た。
--	----

実践内容・方法・成果	<p><実践内容と方法></p> <p>1 こども園・小学校との交流会</p> <p>(1) 隣接する北上こども園・北上小学校と北上中学校との交流会の実施（毎月 1 回）</p> <p>(2) 園児・小学生との合同引き渡し訓練の実施</p> <p>2 北上希望塾「ど根性ひまわりの栽培」</p> <p>(1) 希望者の募集とひまわり迷路の検討</p> <p>(2) 児童と園児をひまわり畑に招待し、ひまわり迷路で遊ばせる</p> <p>※ど根性ひまわり：震災の津波で流れ着いた一粒のひまわり種が芽を出し花を咲かせたことで名付けられた。2世、3世と命を繋ぎ、毎年無料で全国に配付されている。</p> <p>3 「いのちの大切さを考える学習」</p> <p>(1) 命の大切さを学ぶ教室（11月実施）</p> <p>(2) 震災遺構での体験活動（11月実施 1・2年対象）</p> <p>(3) 学習内容の発表（8月～、各種弁論・人権作文等）</p> <p>(4) 3.11 復興行事「いのちの大切さを考える会」の企画・運営</p> <p>4 石巻市総合防災訓練での活動（11月）</p> <p>石巻市総合防災訓練で、中学生が学び、活動してきたことをこども園児や小学生、保護者や地域住民に提案することで、命を大切にするよりよい地域づくりに参画する。</p> <p><成果></p> <p>どの活動においても、生徒の自主的な行動を促すように配慮した。その結果、生徒の達成感や失敗したり、うまく進まなかったときの反省が、次の知恵を生むような展開になっていくことが多く見られた。それこそが、防災に対する大切な考え方ではないかと考える。これから3月11日に実施予定の「いのちの大切さを考える会」の企画も生徒が行うが、今年度のまとめとして、生徒の大いなる成長を期待したい。</p>
------------	---

プランにおける工夫：プランを実践する上で、下記について具体的に工夫をしたことはありますか。

1. 【準備段階】 <u>運営側の担当者を決める際の工夫</u>	役割と方向性を明確にした。
2. 【準備段階】 <u>地域のキーパーソンと連携する際の工夫</u>	コミュニティ・スクールとの連携
3. 【準備段階】 <u>運営側を組織化する際の工夫</u>	



4.【準備段階】 <u>対象者や対象地域の範囲を決める際の工夫</u>	
5.【準備段階】 <u>準備時間を確保する際の工夫</u>	
6.【準備段階】 <u>活動場所を確保する際の工夫</u>	北上総合支所との連携を図った。
7.【準備段階】 <u>活動資金を確保する際の工夫</u>	
8.【準備段階】 <u>知識や情報を収集する際の工夫</u>	
9.【準備段階】 <u>教育・訓練プログラムや教材を作成する際の工夫</u>	
10.【実行段階】 <u>経験豊富なアドバイザーを確保する際の工夫</u>	
11.【実行段階】 <u>地域の理解を得て関係機関と連携する際の工夫</u>	コミュニティ・スクールと連携した。
12.【実行段階】 <u>活動時間を確保する際の工夫</u>	総合的な学習の時間を有効利用した。
13.【実行段階】 <u>活動経費をなるべく抑える際の工夫</u>	
14.【実行段階】 <u>他の実践団体と交流する際の工夫</u>	
15.【継続段階】 <u>後任者を育成する際の工夫</u>	
16.【継続段階】 <u>活動で得られた知識・経験を、かたちにまとめる際の工夫</u>	中学生が地域の方々に調査しグループごとに新聞にまとめたものを冊子にした。
17.【継続段階】 <u>活動の成果を外部に発信する際の工夫</u>	上記の冊子にしたものを、発表の際に地域の方々に配付した。



18.【継続段階】 <u>活動内容を見直す際の工夫</u>	
今後の活動予定・今後の展開	今後は、園と小中学校がさらにスムーズな連携ができるように、この活動を調整しながら実践していく。さらに、地域との連携のためにコミュニティ・スクールの組織を生かし、中学生により貴重な体験をさせることができるよう進めていく。防災教育を幼児から15歳までの長いスパンでとらえることができる北上地区の利点を大いに生かしていきたい。
その他（PRポイントなど）	

チャレンジプランを実践しての感想

チャレンジプランを実践しての感想・思い	地域のことをよく知り、中学生の現状をよく知り、教職員と目指す方向性の共有を図り、さらに園や小学校、コミュニティ・スクールとの連携を図る、貴重な実践となった。
---------------------	--